

使っていると良さ、有用性がわかってくる



●白梅学園大学・白梅学園短期大学

東京都小平市小川町1-830

白梅学園大学：子ども学部、短期大学保育科、発達臨床学科、家族・地域支援学科

白梅学園短期大学：保育科

と活用されているのがGATBということになりますね。

大学では3年の春、短大では1年の秋に実施。進路ガイダンスの中で全員に受検させています。

GATBは言語・非言語領域の問題のバランスが非常にいいんです。進路指導の責任者としてぜひ学生に受けさせたいものだと感じています。

入学した学生の基礎的な能力を、ある程度知ることができます。われわれとしては、学生が就職

人間の価値を最高度を実現しようとする「ヒューマニズムの実践」を建学以来の精神とする白梅学園。大学子ども学部、短期大学保育科ともに「子どもを中心とした人間全体を学ぶ教育」を展開しています。保育、幼児教育分野で歴史と伝統があり、保育現場を中心に多数の卒業生を輩出している白梅学園でも、進路指導にはGATBが必要であるといえます。

進路指導に欠かせないGATB

本学では、20年以上前、短大しかなかった時代からGATBを利用しています。他の検査もいろいろやりましたが、進路指導でず

選考に臨んで他大学の学生と競い合う時に、この学生は何ができるのか、何ができないのか、というのを把握したい。それをチェックするにはびったりです。年次ごとにチェックしていくと、今年の学生は言語領域がいいとか数理がいいといったようなことがわかる。大学と短大、また学科によってもはつきり違いがわかります。問題の中身は変わらないので、同じ尺度で学生の能力を比較できるわけですね。就職の結果を見ても、関連性が見られます。

GATBの結果については、基本的に「いいところを見つけなさい」と学生に言います。弱点ばかり着目してもしょうがないので、



学生部 進路指導課長
西野 輝氏

自分の強みはどこかを理解しようという指導をします。

本学は複数の資格取得を目指すカリキュラムとなっており、ガイダンス実施の回数・時間も限られているので、短い時間で効率的に進路指導をするためには、GATBは欠かせないものですね。学生の能力をとらえるのに非常に適しています。間違いなく今後も活用していくと思います。

ハローワークの求職者や中学生、高校生にも活用されているのも、汎用性、応用性が高いからでしょうし、教員志望の学生たちは、将来自分が実施する側になることもあるでしょう。

自分で作る「ワーク」を

私は、就職活動の時間をもっとゆったりと取ってあげたいといつも感じています。大学生となると、やはり自分で考えて行動するというのが大切です。限られた時間で就職活動させることは、マニュアル化しやすいものになってしま

う。就職先選びにしても、与えられたものに手を出すようなことはやめてほしい。自分の人生をきちんと考えながら、自分のために働く環境を選ぶような就職活動をしてもらいたいと思っています。本学の学生は4年になっても実習があるなど、学業と就職活動の両立が難しいので、心配なところではありますね。

先日、汐見稔幸学長が学生に向けて「働くということ」というテーマに講演をしたのですが、その中で「レイバー (labor) ではなく、ワーク (work) を目指しなさい」と語りました。「レイバー」は「させられる」という使役的な語感があるが、「ワーク」には作品という意味もある。自分で作っていくものだから、こだわりがなくはない。これでいい、ではなくてずっと続いていくもの。自分の意思で選んで楽しみをもって働いていくことが大切なんだ、と。子どもを指導する側になった時に、1000人の子どものがいたら対応は100通りある。「ワーク」という意識があれば、自分で工夫して対応していける教師・保育士になれるでしょう。

GATBも「ワーク」を目指すためのツールです。進路指導の仕事をしているとGATBの良さがわかってきますね。本当に助けられています。